

4 校園庭・ひろばの芝生化のポイント

芝生の生育と環境

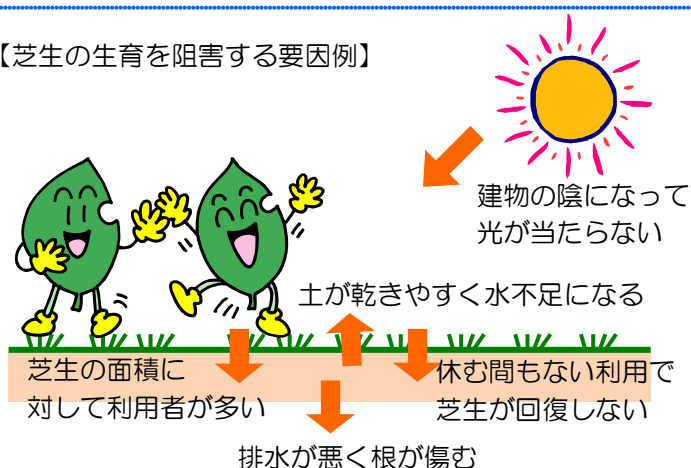
○芝生が育つ環境

芝生が健全に生育するためには光、水、土の環境を整えることが大切です。

特に光は大切で、一日5時間以上の日照を確保するようにしましょう。

また、踏圧に耐える（土が締りすぎない）基盤づくりや芝生を休ませる工夫を行うことが大切です。

【芝生の生育を阻害する要因例】



芝生は年間管理計画（防除暦を含む）を立てて管理し、定期的に観察し、異常が見つかったら速やかに対応しましょう。※防除暦：いつ、どのような病虫害防除を行うかの予定表のこと。

○芝生の基盤づくり

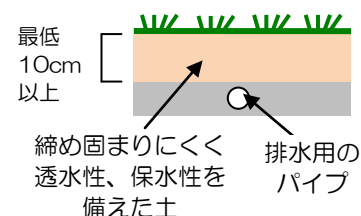
○概ね利用者1人当たり10㎡以上、できれば15㎡程度の芝生面積を確保しましょう。（土のグラウンドも必要な場合があるため、部分的な芝生化など使用用途、頻度や場所にあった計画が必要です。）

○芝生を張る前に、耕運や土壌改良、雑草の除去を行うと根づきやすくなります。

○土壌は芝生にとって重要な生育基盤であるため、可能な限り厚みを確保します。

➡なるべく15cm以上、最低でも10cm以上確保するのが望ましいでしょう。

○土壌は芝となじみやすく、透水性と保水性を兼ね備えた砂壤土（含まれる粘土が12.5～25%の土壌）～壤土（含まれる粘土が25～37.5%の土壌）が適します。排水にも留意します。



施工する際の注意点

○施工後には、転圧、目土を行い、十分な水やりを行います。

○施工後の養生は最低1ヵ月を確保します。（夏休みの間に密度の高い芝生をつくるのが大切です）

○張り芝の植栽適期は3～5月、9月中旬から10月上旬です。

ポット苗の定植は5～6月が適期ですが、裸地がふさがりターフ（芝生）形成までに2～4ヵ月を要します。

○休眠期（11～3月）の植え付けは、根の活着が翌年の4月以降となるため推奨しません。

○遊具の下など過度の踏圧を受ける箇所は、芝生がはげ、基盤が掘れてしまうので、あえて芝生を張らないことや、部分的に人工芝を代用することも検討しましょう。



■張り芝
短期間で敷き込みが可能です。



■ポット苗
一定の間隔で苗を植えていき、横に伸ばします。

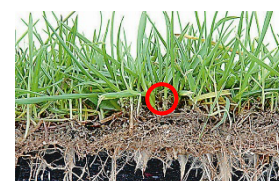
維持管理のポイント

刈込み

- 芝生が伸びてきたら、適宜刈込みを行います。
- ➡ **2~4cm**（仕上がり高）を目安に刈込みます。
- 芝生は刈込み回数を増せば増すほど密度が高くなり、美しく、良い芝生になります。生育旺盛な時期には特に刈込み回数を増やします。
- ➡ 刈込みを十分に行えば、**雑草の生育を抑えられる**とともに、雑草が生えていても見栄えが悪くなりません。
- 刈込みした葉は除去します。（通気性、透水性、景観性の確保）
- 気になる雑草は手抜きを基本としますが、面積が広かったり、多くの雑草が侵入した場合は、国に農薬登録された芝生用の安全な除草剤を用いても良いでしょう。（登録を受けた農薬は登録番号が表示されています）



手押し式は小回りがききますが大面積の芝生には不向きです。また、刃の切れ味にも注意します。



成長点を刈り込まない様注意。芝生の成長点は根元近くにありま

水やり

- 芝生の状態をよく観察し、葉が巻くなど水切れの兆候が見られたら、水やりをしましょう。
- ➡ 暖地型芝生は **5~9月頃**まで水やりが必要です。
- 特に運動会など、**イベント開催の前後や施肥後**は水やりが必要です。
- 施工や補修後の1カ月は毎日の水やりが必要です。
- 大面積の芝生の場合、スプリンクラー等の設置を検討しましょう。



スプリンクラー

施肥

- 施肥は**月1回**を目安に行います。肥料の成分や施用量、施用方法は、目的に応じて決定します。肥料はホームセンター等でも購入できます。
- 暖地型芝の場合、春の萌芽期、梅雨前の伸長旺盛期、及び9月の貯蔵養分蓄積期に十分与え、使用頻度が高く傷んだ箇所には追加でその都度施用します。
- 寒地型洋芝の場合、秋期に耐寒性向上のため有機肥料、緩効性化成肥料及び早春時期に化成肥料を施用します。
- ➡ **芝生専用の緩効性化成肥料**を推奨しますが、普通化成肥料（8-8-8）の場合は1㎡に対して20~40gを目安とし与えます。
- 傷んでいる部分には薄めた液肥を数回与え、施肥後はたっぷり散水しましょう。

■オーバーシード

○暖地型芝生の上から冬芝の種をまくことをオーバーシードといいます。暖地型芝生のグラウンドは冬の休眠時期に利用すると傷みがはげしくなるので、オーバーシードすることで保護できます。

- ➡ **芝の種類によっては相性が悪いものもあるため注意が必要です。**たとえば、ティフトンにはペレニアルグラスを使います。
- ※オーバーシードをした後は2~3週間程度の養生期間が目安です。



オーバーシードの様子

■目土・エアレーション（土壌の更新）

○芝生の更新を促すために目土を行うことが望ましいです。

- ➡ **芝生萌芽後の4~9月の間に4~10mmの厚みで川砂または市販の目土用土壌を敷き込みます。**

○表面に凹凸ができたなら速やかに土を入れて均します。

○通気・排水性を高めるとともに、芝の根腐れ防止、根の伸長、活性化を図るためにエアレーションを行います。（地面に穴を開ける）

- ➡ 適期は**梅雨前**です。

エアレーションにはローンスパイクなどで穴をあけていくスパイクングとローンパンチなどで根や土ごと取り除くコアリングがあります。また、ターフカッターで古い根



エアレーション作業

■補修

○大きな枯損部分があり、補修が必要な時には、枯損要因を考慮したうえで、張り芝・苗の移植・播種などによって補修を行います。

- ➡ 補修は時期に関係なく**その都度**行います。
- ➡ 芝生のある場所から苗を採取し、補修すると手間がかかりません。芝生が損傷した箇所の張り替え修理用に**芝の養生地**（端の目立たない平坦な場所など）を**確保**しましょう。

○目土かけを行うと周囲の芝生の茎が伸びて元の状態に戻ります。



ポット苗による補修

管理スケジュール例

植栽場所の環境や品種によってスケジュールは変わります。

